

父島と母島の自然遺産マップ



わたしたちにもできる小笠原の自然を守るための約束

新たな外来種を侵入させない

日本の本土などの小笠原以外の地域から、小笠原に広がるおそれのある、植物や動物、土・土の付いた苗などを持ち込まないようにしよう。

ストップ

土には植物の種や小さな虫などがひそんでいることが多いのです。

おがさわら丸
OGASAWARA MARU

外来種を広げない

山の中や他の島に行くときは、靴底や服、荷物に、種や小さな生きものがくっついていたり、まぎれ込んだりしていないかチェックしよう。

靴底はブラシで泥をきれいに落としてから出かけるようにしましょう。

種
虫
土
小動物

在来の生きものたちのすみかをそっとしておく

山の中に行くときには、歩道や決められたルートの利用のルールを守り、ルートから踏み出さないようにしましょう。

森は生きものたちの生活の場所

生きものも人も幸せに暮らす

飼っているネコは登録をし、不妊去勢手術やマイクロチップを入れる、屋内で飼うなど、人もネコも野生の生きものも穏やかに暮らせるようにしましょう。

山にいるネコの多くは、捨てネコや飼いネコが産んだ仔ネコが野生化してしまっただけです。

小笠原への行き方

およそ週に1便の船のみ!

平成28年7月から、どちらも高速化・大型化・省エネ化が図られた新船となります。

東京	→	父島
11:00 発		翌日11:00 着
父島	→	東京
15:30 発		翌日15:30 着

おがさわら丸

ははじ丸

東京 竹芝

小笠原諸島は、東京から約1,000km南にある30余りの島々の総称です。これらの島のうち、一般の人が住んでいるのは父島と母島のみです。

東京から約1,000km

丸1日かけて到着

二見港

父島

小笠原

約2時間で到着

沖港

母島

平成28年5月
制作・発行-----小笠原村環境課 <http://www.vill.ogasawara.tokyo.jp/>
☎100-2101 東京都小笠原村父島字西町 ☎04998-2-3111
協力-----環境省、林野庁、東京都
イラスト/デザイン-----羽馬有紗



World Natural Heritage Ogasawara Islands

世界自然遺産 小笠原諸島

登録5周年

進化と変化を続ける島々の
変わらないモノと変わったコト

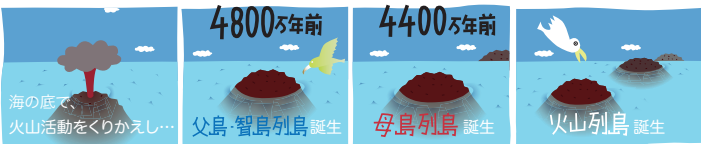


平成23年6月、小笠原が世界自然遺産に登録

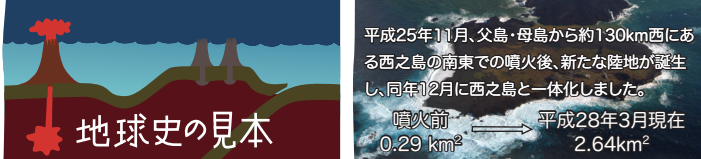
小笠原では、生きものたちが独自の進化をとげた結果、ここにしかない固有の生きものや、それらが織りなす独特の生態系を見ることができます。小笠原のこのような生態系が、小さな海洋島における生物の進化を示す典型的な見本として世界的な価値を持つことが認められ、世界自然遺産に登録されました。それから5年…

小笠原の成り立ち

地球史の見本が現在も進行中

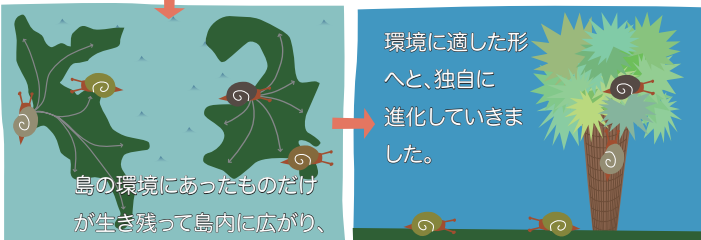


小笠原諸島は海洋プレートの沈み込みから始まる地質的な成長を、珍しい岩石や地形を通して見るができます。



生きものたちの起源と進化

小笠原は今まで一度も大陸と陸続きになったことがない海洋島のため、生きものたちは空を飛んできたり、波や風、鳥に運ばれたりして島にたどり着きました。



世界自然遺産としての価値

植物編 もともとの植生の姿へ



変わったコト

- 外来種の影響により本来の植生が変化
- 外来種対策により在来植生が回復中
- 希少な固有植物の保全(柵で囲って保護、栽培して増殖)

鳥類・哺乳類編 空飛ぶ生きものたちのこと



変わったコト

- 外来種の影響による生息数の減少
- 外来種対策によりハトやコウモリを目撃する機会が増加
- ハトの建物のガラスへの衝突やコウモリによる農業被害などの人の暮らしとの間でトラブル発生
- 智島や母島などで海鳥の繁殖地が回復
- アホウドリが媒島・智島で繁殖

独自に進化した生きものの 変わらないモノと変わったコト

陸産貝類編 マイマイのイマとこれから



変わったコト

- 外来種の影響による生息の危機
- 外来種対策により陸産貝類への影響をなるべく低減
- 固有の陸産貝類の保全(柵で囲って保護、飼育して繁殖)

昆虫編 虫たちをムシしない



変わったコト

- 外来種の影響による生息の危機
- 兄島へのアノールの侵入確認(平成25年)
- 外来種対策により昆虫類への影響をなるべく低減
- 希少な固有の昆虫類の保全(トンボ池の設置、オガサワラシジミ・オガサワラハンミョウの保護)

小笠原本来の生態系をとりもどすためのとりくみ

外来種対策

外来種・在来種どちらの命も大切です。それでも、この対策は、小笠原でしか生きていけない生きものを守るため、生態系全体のバランスに注意しながら進められています。

